

恩師の方々との出会い



若 者

岩 松 幸 花*

Meeting My Mentor

Key Words : education, mentor, doctoral course

はじめに

私は、2018年3月に日本大学大学院理工学研究科海洋建築工学専攻修士課程を修了し、民間のエンジニアリング会社に就職しました。就職先では、土木系エンジニアとして、洋上風力発電施設の基礎構造設計に携わっていました。その後、2020年4月に大阪府立大学大学院工学研究科航空宇宙海洋系海洋システム工学専攻博士後期課程入学、同年7月に研究に専念するために退職。2023年3月に博士号を取得し、4月より現所属にお世話になっています。

博士後期課程進学者の多くは、修士課程を修了した後、ストレートで進学し、修了してから研究員として大学や研究機関に就職していると思います。また、民間企業等で働きながら社会人博士として博士号取得を目指す方もいらっしゃいます。一方で、私は、修士課程修了後、民間企業に入社し、退職して博士号を取得しました。どちらかといえば、少数派の選択だと思います。本シリーズ「若者」は、自由に記述できるということなので、なぜこのような選択に至ったのか、これまで出会った恩師の方々に感謝を述べながら記していきたいと思います。また、本稿を読んだ学生の方々には、卒業後にも多様な選択ができるということを頭の隅に置いておいて、将来的な選択肢の一つとして頂けたら嬉しいです。

海洋工学への関心

今の興味関心に繋がる根幹は、私の幼少期にあります。私は中学3年生まで、田畑と林に囲まれた地域で過ごし、車やバスを利用するとすぐに海や港に辿り着くような自然豊かな場所でした。その地域にある施設で一番好きだった場所は、“海”をテーマにした科学館です。水を利用した展示物が多く、当時の漠然とした「面白い!」という気持ちはどことなく覚えています。海洋工学への関心は、この頃に芽生えたものだと思います。

日本大学での出会い

高校生になってから将来を考えはじめ、様々な大学の専攻を調べました。その中で特に魅力的に感じた分野が海洋工学です。当時、海洋工学を学ぶことができる大学は限られていたこともあり、自然環境や上木に関する工学も併願しました。その中から、海洋構造物全般を対象としたデザイン計画、構造工学、海洋環境等、海に関して幅広く学ぶことができる日本大学理工学部海洋建築工学科に魅力を感じて入学を決めました。そこで出会った1人目の恩師が、居駒先生(現日本大学教授)です。

私が所属していた時期は、大学3年生からゼミ生として研究室配属がありました。ゼミ生としての活動は研究室によって異なり、先輩方の卒論や修論の手伝いであったり、自分の卒論の準備であったりします。私が所属していた海洋空間利用工学研究室では、超大型浮体構造物や海洋再生可能エネルギーなどを対象とした研究を行っており、ゼミ生の間はFortranプログラムの基礎や浮体工学に関する基礎勉強を行いました。4年生になってから卒論テーマを指導教員と決めます。私は、福島浮体式洋上ウインドファーム実証研究事業に関心を持っていたため、居駒先生の下で浮体式垂直軸水車の波浪中運動応答



* Saika IWAMATSU

1993年8月生まれ
大阪府立大学大学院 工学研究科 航空宇宙海洋系海洋システム工学専攻博士後期課程 (2023年)
現在、大阪大学大学院 工学研究科 地球総合工学専攻 洋上風車システムインテグレーション共同研究講座
特任助教(常勤) 博士(工学)
専門/海洋工学
TEL : 06-6879-7679
E-mail : iwamatsu_s@naoe.eng.osaka-u.ac.jp

特性に関する研究に決めました。居駒先生と出会い、この研究を選択したことが現在に大きく繋がっています。この研究は、二瓶先生（現 大阪公立大学准教授）と取り組む共同研究で、4年生になってから先生をご紹介いただきました。二瓶先生には、この5年後に博士課程でもお世話になるとは予想もしていなかったです。

居駒先生との忘れることができない出来事は修士1年のときです。この頃、同じ研究室で進学した同期は8人と例年より多く、卒論の内容で学会発表を行うことができるなど、優秀な同期もいました。当時の私は上手く結果をまとめることができず、同期の中で大した進捗もなく焦っていました。この結果で発表したい、こんな風にまとめたという気持ちばかり先走ってしまい、上手くいかない状態です。そんな時に「今は勉強。結果は来年（修士2年）で出るのが見えているから大丈夫。」と声をかけていただき、当時は先の見えない暗闇にいるような気持ちでしたが、居駒先生を信じて、助言通りに取り組みました。そして、修士2年のとき、水槽試験と数値計算から研究成果をまとめ上げることができました。結果を焦らずに基礎を固めることを重視したご指導は、確実に今の自分の糧になっています。

就職先の優秀な技術者

続いての恩師は、新卒で入社したエンジニアリング会社の上司と先輩方です。修士課程修了後、私は民間企業に就職し、風力発電グループに配属されました。ここで出会った優秀な技術者の方々に感化されて、私は入社2年目の夏ごろに博士課程への入学を決めています。

私の業務は着床式風車の地震応答解析であり、先輩方に教わりながらゼロから勉強していました。職場には、洋上風力の研究開発に取り組まれていた方やコンクリート構造、流体力学に関して精通している方など、幅広く知見がある方々が所属しており、様々な知識を蓄えることができました。優秀な技術者の方々の中で業務を遂行し、「自分にも何か強みとなる技術を得たい」と思い始めたことが博士課程を検討し始めたきっかけです。加えて、職場の方に

「ドクターを取ってきたら？」と後押しもしていただきました。修士課程在学中、博士課程への進学は考えたことはありません。前職の優秀な技術者の方々に囲まれたことが、自分の人生の転機になっています。

博士後期課程で再会

3人目の恩師は、既に登場した二瓶先生です。博士課程では、入学から卒業までかなりご尽力いただきました。また、研究面で支えていただくだけでなく、自分の研究以外のことを学ぶ機会を設けていただいていたと思います。二瓶先生の海事流体力学研究室では、私の研究テーマである浮体式垂直軸型風車に加えて、四胴船を用いた養殖業の自動化といった船舶や養殖に関する研究も行われていました。そのため、浮体式風車だけでなく、船体運動や養殖業についても学ぶことができました。また、二瓶先生の一つの方針である“モノづくり”は、非常に良い経験になりました。3Dプリンターを駆使して試験模型の大半を自分の手で製作した経験は、今の業務に活かされています。

余談ではありますが、研究室旅行と称して、様々な場所に皆で出かけたことは良い思い出です。京都と奈良を訪れたことがないと話したら、日にちを分けて研究室メンバーと訪れる計画を立てていただきました。人阪に引っ越してきて知り合いが片手で足りる程度しか居なかった私には良い息抜きになり、精神的な支えになっていました。

おわりに

本稿では、恩師の方々について述べさせていただきました。どこか論文の謝辞のようになってしまったように思いますが、「自由に記述できる」ということでご容赦願います。どこで人生のキーパーソンに出会えるか分かりません。本稿を読んでいる方々、特に学生の皆様には一つ一つの出会いを大切にしていきたいと思います。そして、私自身も出会いを大切に、自分を高めていきたいと思っています。ここまでお読みいただき、有難うございました。